

平成 30 年度文京区障害者地域自立支援協議会 第 1 回就労支援専門部会 報告

[日時]平成 30 年 7 月 25 日(金) 午後 2 時～午後 4 時

[場所]文京シビックセンター3 階 障害者会館会議室 A・B

●出欠

出席者 委員 23 名 外部 4 名 欠席者 3 名

●議事

(1) 障害者計画の評価について

就労に関係する数値のうち注目したもの

(障害福祉計画)

「事業番号 3-3-1 福祉施設から一般就労への移行」29 年度の達成率が 46%、

「事業番号 3-2-2 安定した就労継続への支援」29 年度の達成率が 130%

「事業番号 3-2-1 就労先企業への支援」29 年度の達成率が 116%

(実態調査)

「問 27 こころのバリアフリーのために力をいれるべきこと ①障害者の一般就労の促進 30.2%」

「問 33 平日の日中の過ごし方 ①特になにもしていない 22.5%」

「問 34 仕事上困っていること ①収入が少ない 39.3%」

「問 36 一般就労に必要なこと ①障害に応じた柔軟な勤務体系 26.4%  
②自分に合った仕事を見つける支援 24.8%  
③就労に向けての相談支援 24.3%」 他

グループワーク（3 グループ）での話し合い

●福祉就労から企業就労への数値が低いことについて（主な意見）

- ・目標の立て方が妥当であったか。
- ・B 型の利用者は障害の重い人が多い、高齢化している。
- ・特別支援学校からの企業就労が増えており、B 型は比較的障害の重い方の進路先となっている。
- ・企業が求める人のレベルが上がっている。
- ・企業就労を希望し、就労可能な方はほぼ就職している。
- ・知的障害のある方は、2 年の訓練（移行支援）より時間をかけて伸ばすことも必要。
- ・企業就労のルートが多様化し、福祉施設を経ずに就労する方が増えている。
- ・企業就労、福祉就労の 2 極化でなく、多様な働き方があるのでは。
- ・福祉就労は経済性では測れない、地域の生活の拠点、安心できる居場所を提供している。

●定着支援の件数（本人・企業とも）が増えている（主な意見）

- ・働くことを支える生活の部分の支援が大事。
- ・職場での相談内容と、支援者への相談内容は違いがあるのでは。
- ・学校から就労の方は、地域の支援者よりも先生の方が話しやすいこともある。
- ・医療機関とのつながりをどうしていくかが大切。
- ・福祉はいつでも戻れる安心できる場所の機能。

- ・自分の病気の理解ができていると自ら相談をすることができる、準備の段階で障害の理解が大事。
- ・就労継続だけでなく転職の支援もある。
- ・ピンチの時に相談しやすい関係づくり、相談しやすい距離感が大事。
- ・医療的なケアや通院同行も大切になる。支援者と主治医との信頼関係を作ることも大切。
- ・職業生活を支える地域の支援者の存在は大きい。福祉のネットワークがポイント。
- ・相談や福祉の資源マップでノウハウづくりはどうか。積み上げが成果になる。
- ・中小企業は、障害者雇用のノウハウがないので、地域の機関で支えるシステム作りが必要では。

## (2) 庁内インターンシップの報告

- ・真砂図書館以外に、件数は新たに増えていない。
- ・今年度中にインターンシップに参加する施設担当者で打合せを行い、部署へのフィードバックやインターンシップ全体のことを話し合う予定。

## (3) その他

### 就労支援者の企業体験プログラムについて

- ・今年度も年3回を企画。参加しやすいように3日間を2日間にした。企業側の目線で見ることができる貴重な機会、また、トヨタ自動車の品質管理に関する講話が聴ける。
- ・8月に第1回を予定している。2回・3回は参加者募集中。

### 区内中小企業の障害者雇用促進について

- ・地域の中小企業の障害者雇用促進が目的だが、さらに、福祉就労への作業発注や中間的就労などに発展していくといい。中小企業の人手不足にもメリットになるといい。制度のくわしい説明は支援センターまで連絡を。

以 上